

ASEAN グローバルプログラム に参加して

立石 大樹
Daiki TATEISHI
電子情報学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけてベトナムとシンガポールでの研修に参加した。ベトナムではハノイ工業大学の大学生とのPBLや企業訪問等を行った。PBLでは事前にSkypeを使って現地の学生とやり取りをしていたおかげで円滑に進めることができた。企業訪問ではRikkei SoftというIT企業を訪問させていただいた。そこでは新入社員の方々とお話をさせていただく機会があり日本で働きたいとおっしゃっていた方が多かったことが印象的だった。シンガポールでは、南洋理工大学の見学、日本人ビジネスマンとのトークセッション等を行った。南洋理工大学は世界トップクラスの大学ということもあり、より専門的な研究を見学させてもらうことができた。以下におおまかな日程を示す。

表1 プログラムの日程

8月28日	ベトナム入国
8月29日	企業訪問
8月30日	現地学生とのPBL
8月31日	プレゼンテーション
9月1日	ハノイ観光 自由時間
9月2日	シンガポールへ移動
9月3日	南洋工科大学見学
9月4日	ビジネスパーソン交流会
9月5日	自由行動
9月6日	シンガポール出国 帰国

2. 参加目的

私がこのプログラムに参加した理由は、大きく分

けて二つある。一つ目は海外で働くということに非常に興味があったからである。日本で得られる海外の情報では具体的なイメージをすることができなかったので実際に働いている方たちにその様子を聞いてみたいと思った。二つ目は海外で異なる価値観の人たちと関わることで自分の視野を広げたいと考えたからである。また、背景も考え方も違うベトナムの学生と英語を使って交流する中でコミュニケーション能力を向上させたいと考えたからである。

3. シンガポールの日本人ビジネスマンとの トークセッション

今回のプログラムの最後の活動では4人のビジネスパーソンの方々との交流、エンジェル起業家の加藤さんの講演会があった。まず、ビジネスパーソンの方々からお話を伺った。お話は非常に興味深く、海外で働くというイメージがより具体的にできるようになった。まず築野さんからは自分で会社をつくるということがどういうことなのかを教えていただいた。会社を作るには仕事の仕組みを作ることが大切であること、日本での当たり前であることであっても他の国では当たり前ではないことが多くあるため、すでに日本に技術で問題解決の方法を見つけることが有効であるということをおぼることができた。柴崎さんからは仕事の選び方の重要性について伺うことができた。他の仕事をまったく知らないうちから自分のやりたいものを選ぶのではなく少しでもいいからできるだけ多くの分野を知った上で選ぶことが大切なのだと感じた。ビジネスパーソンの中には龍谷大学の先輩もいらっしや、身近な人が海外で働いているということに驚きを感じた。

次に加藤さんの「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の公演を聞いた。公演は非常に興味深く60分という時間が短く感じた。加藤さんのビジネスに対する考え方、取り組み方は私の中にあつたビジネスのイメージと異なっていて衝撃を受けた。特に、人は老いていくことで保守化していくという話が心に残った。高齢者は広告を見てもブランドスイッチを

おこさない、いつもと同じ道を歩きいつもと同じものを食べいつもの服を着ようとする。日本はこれから少子高齢化が進むため広告産業においては発展が期待できない。こういったことを踏まえて加藤さんたちのような方達は今後の成長が期待できるアジアに目をむけておられる。ビジネスをするには売るものだけでなく売る対象も重要なことであることが分かった。今回交流させていただいた方々はすごく魅力的で輝いて見えた。いただいたアドバイスを受けてこれから自分がどうなりたいのか、何をしたいかを広い視野をもって考え直したい。

4. 南洋理工大学の見学

シンガポールでの活動の中で南洋理工大学 (NTU) を見学した。NTU はシンガポールの大学で最上位にあり、世界大学ランキングではアジアの1位にランクされている大学である。世界最大級である200ヘクタールの敷地を持ち、3万人以上の学生が学んでいる。まず、NTUのキャンパスを訪れてスポーツ施設や学生寮、飲食店などの施設の充実さを感じた。また、マレーシアなどからの留学生も多くおりグローバルな大学であると感じた。午後からは実際の授業にも参加させていただくことができた。日本とは違って寝ている人は誰一人としておらず全員が授業に集中していた。自分が専門とする内容ではなかったが非常に貴重な経験をすることができた。次に大学内の各施設について細かい解説をし

ていただきながら見て回ることができた。ソーラーカーや遠隔で操作をすることができる医療ロボットはたいへん興味を惹かれた。最先端の分野で学ぶ学生の方々と関わることは今後の学習の意欲の向上につながった。見学の後にNTUで通っておられる2名の日本人の方々にお話を聞かせてもらった。海外にもっといったほうがいいという話がすごく印象に残った。その方は中国から見えた北朝鮮の様子を見て価値観がものすごく変わったとおっしゃっていました。実際、自分もベトナムやシンガポールを訪れているんな出来事で価値観が変わった。その点だけにおいてもこのプログラムに参加してよかったと思った。また、もっと多くの場所へ出向き、さまざまなことを学べることができたらいいと思った。

5. おわりに

今回のプログラムに参加して、多くの貴重な体験をすることができた。ベトナム人学生との交流で行った初めての英語を使ったコミュニケーションは、戸惑うことも多くあり、自分の未熟さをすごく感じた。また世界トップクラスの大学であるNTUの見学ではいままでの大学に対する向き合い方を考えなおさせられた。この研修中自分の至らない点が多くみえてきた。それは日本で普通に生活してはわからないことばかりであると感じた。学んだことや自分の至らなかった点をもう一度見つめなおしてこれからの人生に役立てていきたい。